

ニ ュ ー ス

昭和 42 年電気四学会連合大会開かる

昭和 42 年の電気四学会（電気学会、電気通信学会、照明学会、テレビジョン学会）連合大会が、4月29日から5月2日までの4日間、名古屋大学において開催された。情報処理関係では、“Time-Sharing System”および“Phrase Structure Language”の2課題に関するシンポジウムが行なわれ、それぞれ多数の聴講者を集めた。

“Time-Sharing System”のシンポジウムでは、次の5件の講演が行なわれた。

- 1. Time-Sharing と On-line Interaction
穂坂 衛（東大）
- 2. タイムシェアリングシステムのプログラム
和田英一（東大）
- 3. 日本電気におけるタイムシェアリングシステム計画
金田 裕（日電）
- 4. 日立製作所におけるタイムシェアリングシステム計画
高橋 茂（日立）
- 5. FACOMタイムシェアリングシステム——計算機複合体への構想——
池田・辻ヶ堂・鶴飼（富士通）

“Phrase Structure Language”のシンポジウムでは、つぎの6件の講演が行なわれた。

- 1. 句構造言語 (Phrase Structure Language) について
高橋秀俊（東大）
- 2. Context-Free Language の Recognition
嵩 忠雄（阪大）
- 3. 言語とオートマトンとの対応関係
鳥居宏次（電試）
- 4. 変形文法について
野崎昭弘（東大）
- 5. Phrase Structure Language のプログラミン
グ言語への応用
長尾 真（京大）
- 6. Phrase Structure Language の機械翻訳への
利用
田町常夫（九大）

来春 1 月東京で電算機国際セミナー開講

ローマの国際計数センター（略称 ICC）の後援、海外技術協力事業団（略称 OTCA）主催の「1967年電子計算機利用トレーニングコース」が1月中旬から2

月にかけて約7週間にわたり東京で開かれる。同セミナーは、東南アジアの約15ヵ国から1名ずつを東京に集めて、電子計算機の応用に関する集団研修を施すものである。

参加者として、それぞれの国の政府または教育機関に在職者で、その国の将来の計算機の導入運営などに中心的役割を演ずる人を予想している。

なお（社）情報処理学会では、従来のICC国内委員会の中に計算機研修小委員会（主査、森口副会長）を42年3月に設け、講師の組織、カリキュラム、テキスト、見学旅行、など精力的に作業をすすめている。計画されているカリキュラムは（1）プログラムの基礎的講義と演習（2）種々の計算機の講義と実演（3）トピックスの講義と集団討議（4）受講者による選択問題の実習 などとなっており、従来のこの種セミナーが、その講義時間だけのものに陥る弊をさけ、全トレーニングコースを講師と受講者一体のものとして、その実を上げるよう計画されている。

情報処理の権威。I.L. アウエルバッハ氏来日

情報処理の世界的権威者であるアイザック L. アウエルバッハ氏がユニバック研究会（ユニバック電子計算機システムのユーザーで結成されている研究団体）と（社）日本事務能率協会の招きにより、5月11日に来日、5月26日まで、情報処理学会主催の講演をはじめセミナー、懇談会、ユーザー見学などを行なった。

アウエルバッハ氏は、情報処理分野のパイオニアであり、国際情報処理連合 (IFIP) の創始者、初代会長であり、情報科学、工学の指導的地位にある。



とくに電子計算機の開発の分野では、初期の磁気コア、トランジスタ技術開発の指導的役割を演じ、今日の大型電子計算機の基礎となった「BINAC」商業用初の大形機「UNIVAC I」開発にた

ずさわった。

また、軍関係の各種機器の開発にもたずさわり、リアルタイム処理分野で活躍、ATLAS や ICMB の誘導コンピューターの開発、さらに飛行管制、航空座席予約システムの開発に貢献した。

同氏は 1921 年コイラデルフィアに生れ、ハーバード大学を卒業、アウエルバッハ・コーポレーションを

創立し、現在、同社の社長として活躍している。

わが国においても、アウエルバッハ氏は、電子計算機システム評価の権威者として知られ、電子計算機のパフォーマンスを、ユーザーにとって役立つ戦力という観点から確実に評価し、把握する方法として自ら「アウエルバッハ法」を開発した。

雑報

◎Population Register System の国際セミナー

きたる 9 月 25~28 日にイスラエル国のエルサレムにおいて、「Automation of Population Register System」についての国際セミナーが開かれます。同セミナーに 65 論文が 17 国から提出されたてい由、本学会へ連絡がきております。参加ご希望の方には、学会事務局へ申し込み用紙がありますので、請求しだいお送りいたします。

なお、参加費 30 ドル（8 月 15 日まで、それ以後は 35 ドル）

◎第 4 回ドキュメンテーション研究集会

日本科学技術情報センターでは、きたる 11 月 15 日~17 日に同センター・ホールで、ドキュメンテーショ

ンに関する、特別講演、パネル討論、論文発表、見学会などを行なう。研究発表を希望する方は、申し込み期日が 7 月 31 日ですから、同センターの第 4 回ドキュメンテーション研究集会係（千代田区永田町 2-5-2、日本科学技術情報センター）に至急お問い合わせください。

◎電子計算機による作曲の募集

IFIP Congress 68 は本誌で既報のとおり、来年 8 月英国のエジンバラで行なわれるが、同大会で発表の電子計算機によって作曲された音楽を募集している。応募希望者は、下記にお問い合わせください。

The Administrative Secretary,
IFIP Congress Office,
23, Dorset Square,
London, N. W. 1., U. K.

◎I.

5

階ホ

Corr

氏が

につ

(社)

究会

本号

◎J

(名

「

言

夢

あ

(

「:

タ

演

(

、

Se

つ

51

わ

on

の

◎

J.

単